

弟子たちとペトロに告げなさい

マルコ 16 : 1 - 8



司祭 ヨハネ 井田 泉

2021年4月4日

復活日

上野聖ヨハネ教会にて

週の初めの日、日曜日の朝早く、マグダラのマリアたちはイエスを葬った墓に行きました。イエスのご遺体をきれいに拭いて、香油を塗って差し上げるためです。ところが行ってみると、墓の入り口を閉ざしていた大きな石が脇に転がしてありました。墓は横穴で、その入り口が開いています。

「墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。」マルコ 16 : 5

「白い長い衣を着た若者」とは何者でしょう。天使が若者の姿で現れたのでしょうか。その若者は言います。

「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおりに、ここでお目にかかれる』と。」16 : 6 - 7

イエスの復活を伝えるために、若者はここでマグダラのマリアたちを待っていたのでした。

ここでひとつ注意を向けたいことがひとつあります。若者がこう言った言葉です。

「さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。」

なぜペテロ（ペトロ）の名前があげられたのでしょうか。「弟子たち」と言えば当然ペテロも含まれているはずなのに、どうして「弟子たちとペトロに」と言われるのでしょうか。これは若者の考えではなく、彼をここに遣わした方、つまり復活されたイエスさまご自身がそう伝えるようにと、彼に託されたのに違いありません。

イエスさまは弟子たちのすべてを心にかけておられるのですが、今は特にペテロのことが気がかりだったのです。

ペテロとはどういう人だったのでしょうか。

彼はイエスさまに招かれた最初の弟子のひとりでした。しかもペテロの家がガリラヤ伝道の拠点になっていました。弟子たちの中でペテロは筆頭格、一番弟子と見なされるようになっていました。そのペテロは、イエスが捕らえられたあと、ひそかに後をついて行き、大祭司の屋敷の庭まで入りました。しかし大祭司の僕たちに見とがめられて「お前はイエスの弟子だろう」と言われたとき、ペテロはそれを否定して「そんな人は知らな

い」と言ったのです。ペテロは外に飛び出して泣きました。

ペテロには、最後の食卓でのイエスとのやり取りが何度もよみがえってきたことでしょう。

「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません。」

「あなたは、今日、今夜、鶏が二度鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう。」 マルコ 14 : 29 - 30

ペテロはイエスを愛していました。他の弟子たちがイエスから離れ去ることがあったとしても、自分だけはどこまでもイエスについていく覚悟でした。

しかし実際に自分がしたことは、イエスを見捨て、問われて3度も裏切りの言葉を発することでした。悔いても嘆いても取り返しがつきません。ペテロは自分を責め、自分を無価値とし、生きる資格がないと思いました。死ぬにも死ねず、生きることもできず、ずっと自分を責め続けるしかありませんでした。

しかしイエスはそのペテロを見捨ててはおられませんでした。ペテロが、「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません」と言った、実際にはつまずいたけれども、あのときのペテロの愛とまごころをイエスは知っておられました。

ペテロのイエスに対する愛と真実は挫折したけれども、イエスのペテロに対する愛と真実は挫折しないのです。

失意と自責と絶望の中にあるペテロがいとおしい。自分を信じて従ってくれたペテロが、挫折していま極度に苦しんでいるのをイエスは知っておられました。このペテロを決して見捨てない。このペテロを自責と絶望の中に放置することはできない。

ペテロをもう一度イエスは引き寄せられるのです。それをイエスはまず、若者をとおして伝えようとされます。イエスの意志を託された彼は、墓にやってきたマリアたちに言います。

「さあ、行って、弟子たちとペテロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。」16：7

あなたがた弟子たちは皆必ずイエスと再会するし、ペテロも必ずイエスに会うことができる。

若者をとおしてイエスは、あらかじめペテロに告げておられるかのようなようです。――あなたの人生はわたしを知らないと言って、悔いてそれで終わるのではない。あなたの行くべきところに、わたしが先に行って待っている。そこであなたはわたしに

会う。あなたの人生は挫折して終わったのではなく、これからあなたの新しい人生が始まるのだ。なぜなら、わたしが復活して、あなたに出会うのだから。

もしわたしたちが、イエスを信じてついて行こう思ったことがあるなら、わたしたちはペテロです。勇気がなくて、沈黙したり、信仰をごまかしたりしたことがあるとすれば、わたしたちはペテロです。挫折や悔いと自責を知っているならわたしたちはペテロです。

そして若者が「弟子たちとペテロに」と言ったように、イエスさまはわたしの名前を憶えていてくださって、わたしに会うために先に行って待っておられます。

イエスが実際にペテロをどのように待っておられ、どのように出会ってくださったか。それはヨハネ福音書に記されていますが、今は触れません。

今はただ、わたしたちを見捨てず、わたしたちに会おうとして待っていてくださる復活の主が、わたしたちのためにおられることを知るだけで十分です。わたしたちの前方には、復活の主イエスとの出会いが待っているのです。

祈ります。

主イエスさま、あなたはペテロを見捨てずに、会おうとして待っておられました。あなたはわたしたちのことも見捨てずに、再び会おうとして待っていてくださいます。わたしたちのこれまでがどのようなであったとしても、待っていてくださるあなたに思いを向けさせてください。あなたにお会いして、あなたとともに生涯を歩むことをわたしたちは願います。どうかそのようにしてください。わたしたちのために苦難を受け、復活されたあなたのみ名をたたえます。アーメン